

第9回エクセレントNPO大賞 「組織力賞」講評

1. 審査の視点

「組織力賞」は、活動主体としてガバナンスが機能し、経営の持続性自らの組織改善の刷新性をうまく共存させている組織に与えられる賞です。組織の使命や目的を含めた全体像が文書として明示され、その課題や方針が明確になっているか、事業の効果と成果がホームページ等で公開されているかなど、情報開示、資金調達が多様性や透明性などの点を中心に審査を行いました。また、運営の独立性や中立性を維持しているか、スタッフが組織の目的を理解した上で仕事に取り組み、スキルアップできるよう助言・相談や教育の場を設けているかなど、組織の使命を継続的に遂行できる基盤を十分に持っているのか、という面からも審査しました。

2. 審査結果

(1) ノミネート団体

① 「全日本ピアノ指導者協会」

同会の前身は1966年から始まり、ピアノ指導者の「教育から音楽を普及し、文化を育んでいく人材」としての可能性に気づき、ピアノ教育の普及のための指導者の育成を開始し、この間ピアノ学習の継続を第一の目的とする事業を展開してきました。

半世紀以上にわたり、その活動を発展させてきた経緯として、同協会には1.7万人の会員がいらっしゃり、イベントや組織運営のための運営委員会を持ち、それらは会員のボランティアによって構成されていて、会員がそれぞれの役割を果たすようにマネジメントしてきています。その意味で、歴代の代表者と幹部が、優れたリーダーシップを発揮してきたと言えます。こうしたことから、市民性、課題解決力、組織力の3点をバランスよく発揮されていることを評価しました。

② 「SET」

同会は、岩手県陸前高田市広田町を拠点に活動する団体です。2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに、物資支援をすべく同年3月13日に復興支援団体SETを設立。1ヶ月間でボランティア延べ500名以上が参加した。その後、広田町で活動する中で、少子高齢化や人口減少による町の課題に気づき、広田町や地元住民への貢献を第一考えNPO法人を設立しました。応募書からは、どのような成果を目指して活動しているのかについて、丁寧に記載されており、どこを目指すのか、組織の方向性が明確になっていることが伺えました。

また、リーダーが団体の活動以外にも幅広く活動する中で、様々な団体や人びととの協働を図りながら、団体の目標の課題解決を目指してこれまで非常に尽力されてこられたことを評価しました。

③ 「よりそいネットワークぎふ」

同会では、地域の子どもの貧困問題に取り組んできた各団体が連携し、県下全域で子ども達を支えるべく「学習支援ネットワーク」を2015年に、「よりそいネットワーク」を2016年に立ち上げました。「よりそいステーション」10か所の拠点を中心に、学齢児童300人の世帯を対

象とした活動のほか、無職の若者、あるいは介護離職者の就職支援や相談事業も行っています。地域において、丁寧にニーズを把握し、複数の団体のネットワーク連携を組むことによって、活動の規模、内容を広げスケールアップにつなげることができていることを評価しました。

④「グリーンウッド自然体験教育センター」

こどもをとりまく問題が増えていた1980年代。時代と逆行するように、こどもが全てを決めるフリープログラムキャンプを開始。行っている中で「1年間キャンプがしたい」という思いから、「暮らしの学校いだらぼっち」が始まりました。

同会の活動には、年間350人ものボランティアが参加されており、それだけの方々をマネージされていること素晴らしいと思います。設立から20年間、よく維持、発展させてきたことを評価します。リーダーや中心スタッフの強い意志と求心力を窺わせます。

⑤「多言語センターFACIL」

1995年の阪神淡路大震災で、言葉が分からず情報を得られない外国人被災者の支援を契機に活動が始まり、その後、外国人住民への日常的なサポートの必要性を認識し、1999年に団体として設立されました。2003年からは病院へ医療通訳者を派遣する活動を開始するとともに、外国人住民の社会参画機会の拡大、日本人住民との相互理解を促し、社会的不平等・分断の解消に取り組んでいます。

組織内でコミュニケーションを密にとられている点は、ITツールの活用も含めてとても良いと思います。若手スタッフの研修参加機会やネットワーク構築機会を創出することにも具体的な取り組みを始められており、評価します。

(2) 組織力賞

以上、ノミネート団体の中から慎重に議論を重ねた結果、組織力賞は「全日本ピアノ指導者協会」に決定しました。団体としての歴史があり、さらには、たいへん多くの会員がいらっしゃいます。組織にとっては、強みにも弱みにもなる可能性があるなかで、同会では、たとえば、会員が中心になって企画を提案し、協会がそれを登録承認して実施するなど、全国に1.7万人の会員を抱えるという強みゆえに、アイデアが枯渇したり、特定の会員に集中するということが回避できたのだらうと思いました。その意味で、会員という組織基盤を生かした方法を導入するなど、自らの組織改善の刷新性を推進させている点を高く評価しました。今後、さらに発展していくことが期待されます。

3. 今後に向けての期待

今回の審査でも点数の差はわずかであり、コロナ下など活動面での制約を受ける中で、ボランティアの参加をはじめ時代の変化への対応力と人材育成への具体的な取り組みがポイントだったと思います。組織力強化は、一朝一夕には、成果は生みません。だからこそ、資金源の多様化や人材の育成などを通じて、具体的な取り組みを積み重ねていただくことを期待しています。